う。そのことが、自分に対する確信と、他者への共感と、他人への信頼の基礎をつくっている。自己放棄とみえることが、真の自己実現への道となっているのを見る。

保育の場合を考えても保育者の仕事は、子どもの要求に応答するのに忙しく、自分の自由が少なく見える仕事である。それだから、保育者はときに苛立つ。けれども根本に立ち返るならば保育者は、子どもの自己実現に力をかすことによって、自分自身の心の底の要求は何であるかを考え直し、そして、子どもにも自分にも共通の、人間としての真の要求に目をとめることができる。それに応答するのが保育の実践だから、保育者の生活には、広い意味での自己実現のよろこびがあるのだと思う。

＊北川台輔「一世と二世—強制収容所の日々」(伊達安子訳　聖公会出版　東京都新宿区小川町9—5)

(愛育養護学校)

幼児の教育　第八十五巻　第八号
八月号　©　定価　四〇〇円

昭和六十一年七月二十五日　印刷
昭和六十一年八月　一　日　発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行人　本　田　和　子

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所　図書印刷株式会社

東京都千代田区小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京九—一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします

＊万一製造不良の点がございましたら，おとりかえいたします。